



しろしたこうさく

城下広作県政報告誌

県民の身近な代弁者
熊本県会議員
熊本市水前寺6-18-1
Tel.096-383-1111
(内線2008)
第41号

これが県民の声だ!! ...待ったなし!! 9月県議会で今年2回目の代表質問。

9月議会代表質問項目

1.県内の景気・雇用・金融対策について

- ①景気雇用対策
- ②新卒者の雇用対策
- ③中小企業金融円滑化法の利用

2.新幹線開業に向けたイベントについて

- ①新幹線開業日のイベント
- ②県民総参加の取り組み
- ③各種大型イベントの計画
- ④高校生郷土芸能甲子園の開催(要望)

3.熊本駅周辺整備について

- ①新熊本合同庁舎B棟の建設
- ②駅周辺の駐車場の確保
- ③熊本駅への物産館の設置

4.有権者の声の反映について

- ①二元代表制
- ②民意を反映した選挙制度

5.災害対策(ハザードマップ)について

6.災害時要援護者対策について

- ①未策定市町村への対応
- ②住民への周知と情報管理のあり方
- ③民生委員活動がしやすい環境づくり
- ④国民保護における要援護者の避難(要望)

7.災害復旧の効率化対策と災害情報の確保について

- ①地籍調査の推進
- ②地上デジタル放送への移行に伴う難視対策

8.外国人観光客の誘客促進について

- ①東アジア観光戦略
- ②医療観光

9.うつ病・福祉対策について

- ①うつ病対策
- ②ハートフルパス制度

新卒者の雇用対策と中小企業の金融対策について

熊本県では、3年以内の既卒者を新卒扱いで採用した場合に奨励金を支給する制度の周知と既卒者採用拡大の要請を行う。

「中小企業金融円滑化法」で返済猶予されても、最終期限がそのままのため、月々の返済額が増えてしまう。期間延長にも対応。

新幹線開業日のイベントについて

待望の新幹線の全線開業。効果が大きいに期待されている。特に新幹線開業日の出発式は、全国に熊本を発信する大きなチャンスである。出発式にはぜひ熊本駅始発の一番列車で開業を祝う式典が盛大に行えるよう、県とJRとの連携の強化を要望。

災害時要援護者対策について

民生委員は“災害時要援護者”との係わりが強く、災害時にも重要な役割を担う。しかしなり手不足が問題。住民の理解が大事であり、今年度からPR活動に助成をしていく。

東アジア観光戦略について

平成21年に策定した「ようこそくまもと観光立県推進計画」の中で、東アジアからの誘客を促進。今後、中国はクルーズ船ツアーや航空機チャーター便の誘致など、また、韓国は高速鉄道・高速船・九州新幹線の活用を視野に入れ、誘致を促進していく。

うつ病・福祉対策について

うつ病は増加傾向にあり、適切な医療の推進が重要課題。公明党が推進してきた「認知行動療法」への医療保険適用は、患者にとっては朗報。しかし、保険が適用されるのは診療の時間が30分以上の場合。しかも“医師”に限られ、“臨床心理士”は適用外。国における業務の明確化や保険適用について早急な検討を期待している。県としても、今後、認知行動療法の普及をはじめ、うつ病対策の充実に努める。

2月県議会での代表質問が少しずつ実現しています!!

2月議会代表質問項目

1.平成22年度予算案について

2.荒瀬ダム撤去問題について

- ①水利権の申請
- ②撤去に伴う財政支援
- ③「ダム撤去への協議の場」設置

3.新熊本合同庁舎整備について

- ①B棟の建設について
- ②A棟の入居時期

4.道州制の導入の見通しについて

5.高齢化社会に対応する介護保険制度のあり方について

- ①新・介護公明ビジョンの評価
- ②入居待機者数及び要介護4、5の重度待機者数の把握
- ③長期的な展望を持った計画の策定

6.若者の雇用創出と新卒者支援のあり方について

- ①若者の雇用創出の具体的対策
- ②新卒者の就労支援
- ③新卒者への情報の周知

7.ドクターヘリの導入について

- ①運用開始時期
- ②基地病院の決定
- ③防災消防ヘリ「ひばり」との連携体制
- ④騒音に対する地元の理解について

8.脳脊髄液減少症患者の救済について

- ①患者数把握の調査方法
- ②学校関係者の研修

9.特別支援学校の設置について

10.県の物産品の売り込みについて

- ①銀座熊本館の体制強化
- ②県物産館の「桜の馬場」への移設
- ③新幹線開業に向けて県物産館の駅舎内への新設

介護施策に活用せよ!

城下広作県議は、県の健康福祉部長を訪ね、公明党がまとめた「新・介護公明ビジョン」を手渡し、介護施設の充実や在宅介護への支援強化等の介護施策の充実を求める政策提言を行った。



ドクターヘリが2011年12月導入!

県は、救急専門医や看護師が搭乗する救急医療専用ヘリコプター「ドクターヘリ」を2011年12月から導入します。

特別支援学校整備を要望!

障がいのある子どもの親がつくる熊本市の「虹の会」は、城下広作県議とともに県庁を訪れ、特別支援学校の整備を要望。来年には、熊本聾学校内に、養護学校高等部分教室が開設されます。



脳脊髄液減少症の学校での理解を!

城下広作県議は、脳脊髄液減少症の学校現場への周知徹底を強く訴えてきた。脳脊髄液減少症患者家族子ども支援の会では、教育現場での病気の周知徹底と行政の相談窓口設置、治療病院の拡大や保険適用の国への働き掛けを県に要望。県高等学校保健会は、保健研究協議大会を開催し、「中高生の脳脊髄液減少症について」の講演を行った。その中で、診断の入り口となる保健室や学校の役割が重要と主張しました。



●**ホットライン**《お気軽にご相談ください》

県議会/096(383)1111(内線2008)・携帯電話/090-8661-7722

●**ホームページ** <http://kumamoto-komei.net/shiroshita/>

●**メール** shiroshita@kumamoto-komei.net